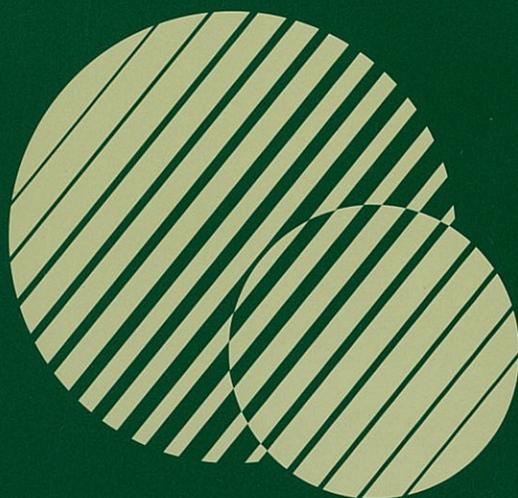


大塚恭男先生顕彰

記 念 文 集



大塚恭男先生顕彰会

大塚恭男 追悼の御礼

親族代表 渡辺賢治

大塚恭男は平成21年3月8日早朝に亡くなりました。眠るように穏やかな顔でした。納棺されても本人はまだ眠りの延長にあるのではないかというくらい穏やかでした。

漢方を愛し、医史学を愛し、酒を愛し、幼少より漢文になじんでいたお陰で、論語や漢詩をそらんじ、酔っぱらうとすらすらと漢文を書いたものです。趣味が読書と勉強で、食事と散歩以外はいつも勉強していました。武蔵高等学校時代の親友で元東大総長の有馬朗人氏をして、「茂吉好きの博覧強記の人」と言わしめたほどでした（日本経済新聞2009年3月28日夕刊）。

留学していたドイツをこよなく愛し、北里研究所東洋医学総合研究所を退職後留学していた地を辿った旅は特に楽しそうでした。

旧制一中、一高、東京大学時代の学友、第一内科、日立病院、薬理学教室での同僚、そして長らく勤めました北里研

究所での同僚や数多くの弟子たち、多くの友人や同僚に恵まれ、いつも感謝の言葉にあふれていました。決して人の悪口を言わない人で、晩年もよく誰々はいいやつだとか、あの人にお世話になった、と感謝ばかり話しておりました。今回の訃報に対して、ドイツのウンシユルト教授はじめ、イギリス、カナダ、スペイン、アメリカからも弔意の連絡や花が届き、学者としての人生に恵まれただけでなく、訃報に接した患者さんからも花や弔電が全国から届けられました。「仁徳院長醫恭順大居士」という戒名を頂戴しましたがその名の通り、多くの患者さんから慕われ、一臨床医としての人生も全うした証として、故人が大変に喜んでいると思います。

そうした生前お世話になった方々に旅立ちをお見送りいただき、また故人に対する思いを頂戴し、誠に有難うございました。私たち遺族に対し、今後とも故人の生前と変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申しあげまして挨拶とさせていただきます。

(医師：〒160-0008 東京都新宿区三栄町13)